

クラウドベースの
システムを導入



NEWS LETTER 遊文通信

2016年10月発行

65

色再現の
さらなる進化へ

『遊文通信』前号でご紹介したように、すでにインターネットとAI(人工知能)による「第4次産業革命」が予兆され、印刷技術も従来に比べてめまぐるしく変化・発展し続けているのは、皆さんご承知の通りです。

遊文舎でも溢れる情報のなか、自社のめざすべき最適化は何か、日々アンテナをめぐらせていますが、そのなかから色再現について最新技術のご報告です。

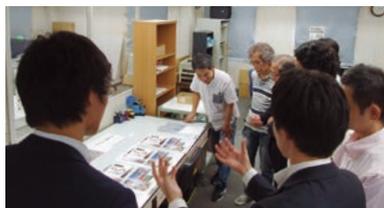
カラーマネジメントシステム

色の見え方は人によって様々であり主観的でさえあります。そのうえ、印刷にあたっては図のように、ワークフローごとに出力するデバイス(機器)が違い、それぞれ色の生成方法や再現できる色の範囲が異なります。同じデジタルデータを扱っても、色の情報に差がでてしまうのです。

遊文舎では2007年より、入力から印刷までの全工程で色を標準化し管理していくCMS(カラーマネジメントシステム)に取り組んできましたが、十分とはいえませんでした。そこで、このたびFUJIFILM社「XMF ColorPath」を導入し、一歩進んだCMSを確立しました。

XMF ColorPath がもたらす進化

1. 場所を選ばないクラウド方式。色合わせに必要なプロファイル作成システムがクラウド上にあるため複数拠点での色合わせが可能に。
2. 色合わせ精度の向上。ColorPathで作成されるプロファイルは調整を繰り返すたびに精度を向上させる。これに



会社見学での説明もたびたび

より使えば使うほど精度が向上。

3. 品質の安定。従来は担当者が1ヶ月に1回、全プリンタでチャートをプリントして測色するため相当の時間を要した。ColorPathのチャートはとてもシンプルのため1分程度で可能。チェックする回数を増やして安定的に管理できる。

究極はお客さまへのサービス

- ・異なる印刷方式(オフセット印刷、オンデマンド印刷)
 - ・複数のプリンタ(インクジェット、レーザープリンタ)
 - ・拠点間(大阪本社、東京営業所)
- での出力物が同じ色再現になる。

すなわち、初校から最終仕上がりのイメージを確認できるということで、校正の回数を減らせるかもしれません。また色修正の結果を確認する際にも、本機校正などのやり取りが減り、納期短縮・価格圧縮につながるでしょう。ColorPathによるカラーマネジメントシステムの強化により、品質保証・効率化・短納期化に多に寄与できるものと確信します。

(製版チーフ 秦 孝次)

クラウド上の一元管理でカラーマッチングを実現

これにより遠隔地であっても同じ色をお客様にお見せすることができます



ばっしー

東京転勤奮戦記



新緑と赤門



安田講堂

私、石橋は2015年6月に本社から東京営業所へ転勤しております。

少し今更ではありますが、転勤の経緯や初めての一人暮らしなどのことを書かせていただきたいと思います。

転勤の経緯

これはズバリ、首都圏の販路拡大に向けての戦力追加でした。1年半前に転勤していた佐地所長だけでは、広い首都圏をカバーしきれないとのことで私に白羽の矢がたちました。

初めは、東京での生活に一抹の不安を覚えましたが、何はともあれやってみようと思いを固めました。仕事をする上でも、関西人を受け入れてもらえるのかなど様々な不安がありましたが、遊文舎の売上拡大という大きな目標のもと、東京へやってきました。

はじめての一人暮らし

大阪でも一人暮らしをしたことがなく、実家から出たことがなかった私は初めての引っ越しを終え、東京で新居を構えました。新居の周りにはスーパーもコンビニもなんでもそろっていて、買い物は不自由しませんでした（スーパーが深夜まで開いているところが多く、ビックリ）。

東京営業所から近めの本駒込に家を借りたので、会社までは歩いて通勤です。本郷三丁目は、東京大学が近くにあり、季節ごとにイメージの変わる赤門と銀杏並木を見ながら歩いていました。駅に近づくにつれて、人がどんどん増えていきます。最初に出張で来た際も、なぜこの駅でこんなに人が多いのかとビックリしました。さすが東京！なのか、本郷三丁目がメジャーな駅なのかよくわからず人混みの中を歩いたことを覚えています。

東京での営業

大阪では、基本的には車でお客様のところを回らせていただいていたのですが、東京では電車で移動しています。東京の路線が（私にとって）とても複雑で、スマホ

のアプリで調べないと全く分からず毎日苦労していました。同じ場所へ行くのに、2通りも3通りも行き方があり、かかる時間が違う、乗換が多くて遠いなど、知らない土地でいろいろ試行錯誤です。地名や場所、さらに乗換方法を、いまでは少し覚えてきたのでアプリに頼らずスイスイお客様のもとへお伺いできるようになりました。

最初は、話し方つまり関西弁に嫌悪感を抱かれるのではないかと心配していましたが、標準語を喋ろうにも上手いかず、さらにイントネーションがおかしくなり、関西弁でもなく標準語でもないようなことになってしまい、すぐに諦めました。本社が大阪ということで皆様すぐに「転勤してきたの？」の話題にしてくださいるので、今も気にせず関西弁を直さず地のままで話させていただいています。

よく関西人は東京でも関西弁を直さないと聞いていましたが、お客様を訪問した際も、オフィスで飛び交う会話に関西弁が混じっている場合が多々あり、なぜか安堵したりします。社内で話す際には、所長と私が関西人ですが、他のスタッフは関東人のため、時々伝わらない単語があり盛り上がります。ただ、標準語も使い分けられるようになればいいかと、チョッピリ思ったりする近頃です。

約1年半前に首都圏の販路拡大に向けて転勤し、その頃には私を含め3人だった東京営業所もいまや7名になりました。そして、私事ですが関東在住の伴侶に恵まれ、ゆくゆくは営業の立場から社内営業サポートの立場へ配置転換することになりました。改めて東京に腰を据えて、皆様を支えていければと思っていますので、これからどうぞよろしくお願ひします。（東京営業所 石橋 清香）

東京駅



東京駅を闊歩中



● 編集後記 ●

AI・IOT・クラウドなどまだまだ先と思っていたのに、ふと気づくと身の回りにあふれている。自宅の掃除はルンバ任せ、会社のタイムレコーダーはクラウド上にある。なにより情報はインターネット頼りで、5年前まで愛用していた広辞苑はこのところ繙くこともない。仕事の首根っこはPCにガッツリおさえられている。にもかかわらず、このOS10の理不尽は何とということだろうか。勝手にVerUpして2時間のロス。マイクロソフトより己の不注意を呪えと憐みの目で見られている。トホホ
(遊民)